



大正製薬 **リポビタン**

第45回 全国選抜高校テニス大会

大会レポート



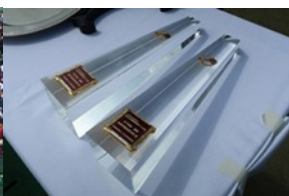
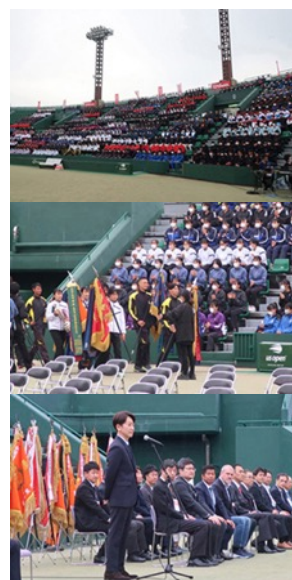
全国高等学校体育連盟テニス専門部

常任委員 都築 和義

令和5年3月13日以降、マスクの着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断が基本となりました。それに伴い今大会は、マスクを着用しての声出し応援が可能になるなど、ある程度コロナ感染症対策前の状態に近い形で開催となりました。さらに45回記念大会として、団体戦は8校増枠して男女各56校、個人戦は、団体戦に出場した学校の登録No.1選手男女各56名、そして47都道府県推薦選手男女各47名、および福岡県特別枠推薦選手男女各1名を加えた男女各104名が、全米オープンジュニア予選WCをかけた6日間の熱い戦いを繰り広げました。

<開会式 3月20日(月)>

3年ぶりの観客を入れての開会式でしたが、途中雨のため短縮されました。スタンドは各チームお揃いのウェアで華やかさが帰ってきました。



選手宣誓

世界中を巻き込んでいるウクライナでの戦争。収束しつつあるものの、油断できない新型コロナウィルス。そんな流れの中、スポーツが出来る喜びを胸に私たちは今ここに立っています。

保護者の皆様への感謝の気持ち、先生や友人への感謝の気持ち、大会を開いてくださった方々への感謝の気持ち、そして今ここに集っている尊いライバルたちへの感謝の気持ちを胸に、ここに立っています。

選手宣誓をさせていただくにあたり、私たちが毎週行ってきた、9年間でのべ9000人が参加している小学生テニス教室活動が評価されたこと伺いました。地域も小学生も部員の私たちも笑顔になれる、こういった普及活動は、テニスへの恩返しにもなります。人と人とのつながりが叫ばれている今、この45回大会を、みんなで普及活動を始めきっかけの大会とすることを提案します。





宣誓

私たちは、関わってくださった全ての方々への感謝の気持ちと、一緒にプレーできるライバルへの尊敬の気持ちを胸に、自分を信じて、仲間を信じて、最後まで正々堂々と戦い抜くことを誓います。

2023 年 3 月 20 日

男子 高崎商科大学附属高等学校 主将 根本 悠希

女子 徳島県立徳島商業高等学校 主将 船本 紗恵

その後、古賀賢大会会長、日本テニス協会の福井烈専務理事からご挨拶を頂戴しました。



<団体戦 3月21日(火)～24日(金)>

雨の影響で大幅に日程変更されて、選手のみさんには多大なるご迷惑をおかけしました。しかし福岡県補助員のみさんが一生懸命水取りやコート整備をしてくれたおかげで、最終的には全ての試合が無事実施されました。

男子は相生学園(兵庫) [1]、関西(岡山) [3-4]、3-4 シードの法政二(神奈川)を破った佐土原(宮崎)、四日市工(三重) [5-8] がベスト 4 入りを果たしました。

決勝は 4 連覇を狙う相生学院と四日市工との顔合わせ。S3 まで纏れる大接戦となりました。最後は相生学院の 1 年生前田選手が 64,63 で競り勝ち、見事 4 連覇を達成しました。

男子団体優勝 相生学院高校の優勝コメント

先輩たちが築いてきた歴史を、僕たちが続くことが出来てとても嬉しいです。それぞれ ITF の試合や高体連の試合があるんですけど、団体としてはインターハイが夏にあって、去年は優勝できなかったのが、今年は優勝できるように頑張りたいです。

主将 坂本日色選手



女子は1シード浦和麗明(埼玉)を破った岡山学芸館(岡山) [5-8]、四日市商(三重) [5-8]、山陽女学園(広島) [3-4]、相生学院(兵庫) [2] がベスト4入りを果たしました。準決勝はともに3-2と大接戦。四日市商と山陽女学園が決勝戦へと駒を進めました。

決勝戦は2-2となりD2勝負となりましたが、四日市商の2年生ペア加藤選手・川出選手が、最後は相手のミスを誘いゲームセット。2度目の優勝を成し遂げました。

女子団体優勝 四日市商業高校の優勝コメント

優勝することが出来て、ほんとに嬉しいです。今後の目標は、北海道のインターハイで優勝することです。

主将 安高日渚莉選手



<個人戦 3月22日(水)～26日(日)>

男子のベスト6は、団体戦決勝の山本夏生選手(相生学院)、川上慶楨選手(大分舞鶴)、海野優輝選手(足利大附)、遊川大和選手(関西)、武方駿哉選手(柳川)、団体戦ベスト4の本山知苑選手(四日市工)。決勝は、速いタイミングで攻撃的なプレーをする山本選手(相生学院)が62,52と武方選手(柳川)をリードしましたが、そこから武方選手が5ゲームを連取して第2セットを75で奪い返し、第3セットも連戦の疲れが窺える山本選手を64で退け逆転優勝。全米オープンジュニアのチケットを手に入れることが出来ました。



武方駿哉選手(柳川)のウィナーズスピーチ

まずこの大会を開催してくださった関係者のみなさま、補助員のみなさま、ありがとうございました。今日決勝を共に戦ってくれた山本選手、ありがとうございました。そして今日応援に駆けつけてくれたチームのみんな、保護者のみなさま、家族、コーチ、本当にありがとうございました。僕はこういった大会で優勝するのは初めてで率直に嬉しいんですけど、この結果に満足することなく、全米オープンジュニアでは1試合でも多く勝って本戦に出場できるよう頑張ります。今日はありがとうございました。





女子のベスト6は、団体戦優勝の林妃鞠選手(四日市商)、岡村凜那選手(鳳凰)、団体戦ベスト4の里菜央選手(相生学院)、予選から勝ち上がった津田梨央選手(名経大市邨)、水口由貴選手(沖縄尚学)、団体戦準優勝の上野梨咲選手(山陽女学園)。決勝は里選手(相生学院)が津田選手(名経大市邨)から立ち上がり3ゲームを連取。その後互いにサービスキープが続き、第9ゲームで津田選手のリターンが冴えブレイクバック。第11ゲーム、里選手がフォアのスライスやループボールなど緩急を織り交ぜ、苦しみながらもサービスキープ。第12ゲームで津田選手がブレイクされ、里選手から75。第2セットは第3ゲームで先に津田選手がブレイクに成功するも、里選手が第4ゲームですかさずブレイクバック。その後ブレイク合戦が続き、里選手54リードで迎えた第10ゲームもブレイクに成功し優勝。

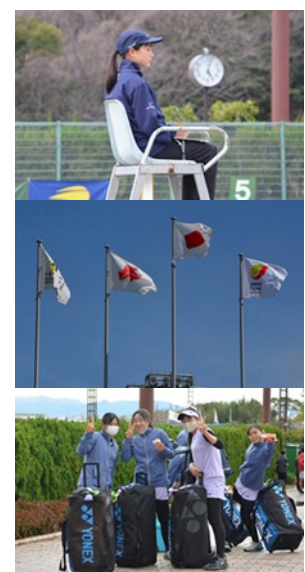
里菜央選手(相生学院)のウィナーズスピーチ

団体戦で声を出しすぎて声があんまり出ないんですけど、簡単に言わせてください。まずこの大会を開催してくださった関係者のみなさま、そしてずっと応援してくれた仲間とコーチ、両親へ、本当にありがとうございました。去年は3位という悔しい結果に終わってしまって、今年は優勝することが出来たので素直に嬉しいです。これからも大会は続くので、もっと成長できるように頑張ります。ありがとうございました。



古賀会長挨拶

本当に感動いっぱいの決勝戦ありがとうございました。勝負はどうしても勝ち負けがついてしまいます。今日の試合を見て勝ち負け以上のものが会場・コート内に溢れんばかりの結果が出たと思っています。本当に4人ともありがとうございました。準優勝の山本さんと津田さん、もう気持ちは夏に向かってと思います。夏で絶対にリベンジしてやるという気持ちがそこにあると思います。お二人の夏へ向けての進化、本当に楽しみにしております。大会チャンピオンの里さんと武方くん、本当に優勝おめでとうございます。USオープン、どうですか？USオープンが待っています。是非とも世界を見てきて、世界で戦って、そして世界に勝つような選手に成長してもらいたいと思います。本当に優勝おめでとうございます。





最後ですけども、第45回全国選抜高校テニス大会、大会関係者の全てのみなさん、先生方、そして高校生審判のみなさん、関係企業のみなさま、この大会をサポートしていただきまして心より感謝申し上げます。みなさんもお存じの通り、この選抜大会は3年間フルにできないような状況で開催を続けてきました。3年ぶりのフル大会です。3年間空いてしまうといろんなことが失われているところがあるかと思います。そんな中で高校生審判のみなさん勇気あるコールをしてくれて、先生方、企業のみなさん、ワンチーム・ワンドリームのために頑張ってくれて、この大会が成功できたことに心から感謝申し上げます。45回大会です。50回大会へ向けて1年1年進化した大会に頑張っていきたいと思っておりますので、選手のみなさんはもっともっとスキルアップして世界と戦ってもらいたいと思いますし、この大会がもっともっと夢のある大会に成長し続けていきたいと思っています。今後とも関係者のみなさん、保護者のみなさんどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。



終わりに

やはり声だし応援の「力」というものを再確認した6日間でした。チームの一体感がまるで違います。プレー中の選手は、仲間からの応援に、何度助けられたことでしょう。心折れそうな時に、自分のパフォーマンス以上のものを、何度発揮できたことでしょう。一緒に泣いて笑って喜んで、いくつもの素晴らしい瞬間に出会うことが出来た大会でした。

そして、この大会を支えてくださった全ての方々に、心より感謝申し上げます。



